

令和４年度 学校評価シート

学校名：専修学校 クラーク高等学院 姫路校

目指す学校像	「社会で活躍できる人材育成」
育てたい生徒像	1. 基礎学力と基本的な人間力を身に付け、将来の夢を見つけることができる生徒 2. 非認知能力を向上させ、変化する社会で主体的に行動できる生徒 3. 一人ひとりが3年間を全うし、卒業後の希望進路実現を目指す生徒

本年度の重点目標	1 基礎学力を定着させ、自学自習の習慣を身に付けさせる
	2 ピア学習やプレゼンテーション活動等を通して、豊かで逞しい人間力を養成する
	3 教職員のチーム体制を再構築し、進路実現を図る

達成度	A	十分に達成した（80%以上）
	B	概ね達成した（60%以上）
	C	あまり十分でない（40%以上）
	D	不十分である（40%未満）

※ 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目（年度達成目標）を設定する。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。

※ 評価項目に対応した具体的方策と方策の評価指標を設定する。
※ 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を受ける。

自己評価					令和４年度評価（２月２８日現在）		
年度目標							
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善方策
1	<現状> 在校生の80%が不登校経験、学力不振等の課題を抱えている。 また、学力差が大きく学習意欲の低い生徒が多い。 <課題> ・学力把握と基礎学力の定着 ・学力上位層の学力のさらなる向上 ・学習環境の整備	基礎学力の定着	・ティームティーチングによる指導体制の確立 ・基礎学力チェックテストの実施	・計画的に授業進行ができたか。 ・基礎学力の定着が図れたか。	複数教員による指導体制を定着させたが、基礎学力の定着は十分ではなかった。	B	・基礎学力の定着度に合わせて放課後学習を紐づけ、一人ひとりの学習コーチングを強化する。 ・朝学習による学力向上を様々な観点から評価し、モチベーションアップを図る。 ・個々の希望進路に必要な学習内容を明示し、学習意欲の向上を目指す。
		朝学習への取り組みの改善	担任、教科担当による情報共有と共通の声掛け	・個々の習熟度に合わせた学習計画を立てられたか。 ・自主的に学習を進められたか。	習熟度に合わせた教材活用が不十分だったため、学年が上がるにつれ学習意欲の低下が見られた。	B	
		放課後の学習環境の整備、体制の強化	教科担当と上級生(学力上位層)による放課後学習の実施体制の強化と適切な告知、案内	・年間スケジュールの告知 ・教員役の上級生の役割を明確化し、協働学習ができたか。	・スケジュールに合わせた体制が不十分だった。 ・上級生のモチベーションが上がらなかった。	C	
2	<現状> 主体的に表現することに苦手意識を持つ生徒が多い。効果的なピア学習、プレゼンテーション活動が成立していない。 <課題> ・3年間を通した支援、指導体制の確立 ・多様な生徒への対応 ・個々の活動記録と振り返り	ピアアシスタント 基礎課程の取得	年間を通した継続的な指導	1年修了時に取得できたか。	目標を明確化して取り組めたが、コミュニケーション力の低い生徒への支援が十分ではなかった。	B	・1年次の年度末に基本的なコミュニケーション力が習得できるようなピア学習の指導法に改良する。 ・プレゼンテーションの授業での取り組みや評価を教員間で共有し、個々の成長を促す。 ・各教科、授業間で連携し、3年間を通した一つひとつの活動が成長につながるよう工夫する。
		効果的なプレゼンテーション活動	2、3年次における継続的な指導	・各年次の年間指導計画を構築、実施できたか。 ・生徒自身の満足度	・各授業間の連携、情報共有が不十分だった。 ・生徒個々が成長を感じることができた。	B	
		ポートフォリオの徹底	・3年間を通した活動記録の蓄積 ・適切な振り返り活動	・目標の設定、実践の確実な記録 ・次の活動へ向かう振り返りができたか。	・各活動における明確な目標設定ができた。 ・学年が上がるにつれ、モチベーションが低下している。	B	
3	<現状> 1年次の進路指導が不十分なため、生徒、保護者ともに意識が低い。大学進学率と進路決定率が安定していない。 <課題> ・1年次からの進路指導の徹底 ・教職員間の情報共有や指導力の差 ・個々に合わせた受験対策	進路3か年計画の見直しと明示	・進路指導課による計画の再構築 ・保護者会と三者面談での継続的な進捗確認	・多様な入試への対策を構築できたか。 ・生徒、保護者の満足度	教員全体で3か年計画を共有できたが、保護者の協力を得るには不十分だった。	B	・進路3か年計画による成果、課題を分析し、次年度以降の活用方法を再検討する。 ・生徒の情報・進捗に基づき、複数教員で役割を分担した進路指導を徹底する。 ・授業力と面談力向上の相乗効果を図る研修を計画、実施する。
		複数教員による進路指導体制の構築	・情報共有の徹底と進捗確認 ・進路指導課による研修	・定期的な会議を実施できたか。 ・複数教員で指導できたか。	・2、3年生については情報共有を徹底できた。 ・複数教員によるバランスの取れた指導ができた。	A	
		多様な希望進路に対する指導力の向上	・定期的な授業巡回 ・授業力と面談力の研修	・管理職による授業巡回と面談を実施できたか。 ・定期的な研修の実施	・定期的な巡回、各教員への聞き取りを実施できた。 ・計画的な研修の実施ができなかった。	B	

学校関係者評価
実施日 令和５年２月２８日
学校関係者からの意見・要望・評価等
常に一対一対応を意識した学習指導を提供できたことは評価できる。学力差や基礎学力の向上に対する課題に対し、不登校生徒への継続的な支援に加え、効果的なコーチングを構築していくことがポイントになる。 入試において学力試験を乗り越えたことにより感じた「できた」という体験を入学後の早期に学習意欲へ導き、継続的な学習体制を確立することが重要である。
プレゼンテーション力を養成することは良い取り組みである。前段としてコミュニケーションの場を多く設け、一人ひとりの役割を見極めることが重要である。3年間の取り組みが個々の人間力の向上につながることを期待する。 活動についての振り返りでは、次の活動を想定し、生徒自ら目標の再設定を行うことが重要である。
多様な希望進路に対する工夫が見られ、丁寧な進路指導を行っている。保護者からの信頼を得ていることにも感謝した。2年次で低下傾向にあるモチベーションについては、保護者とともに同じベクトルでサポートすることが進路への意識を向上させるのではないかと 思う。 複数教員によるチームでの進路指導体制の確立に加え、個々の指導力向上を常に意識し、進路決定へ尽力してもらいたい。